シップ・オブ・ザ・イヤー2021　選考経緯

「シップ・オブ・ザ・イヤー2021」には、小型客船部門 4 隻、大型貨物船部門 2 隻、小型貨物船部門 3 隻、漁船・調査船部門 2 隻の、計 11 隻の応募があった。これを受けて 3 月 31 日に海事分野の技術専門家からなる予備審査委員会が開かれ、このうち 10 隻が本選考委員会に推薦された。

候補船の発表会・選考委員会は、5 月 10 日に、発表会はオンライン形式で、選考委員会は Web 会議併用方式で開催された。

各応募船の担当者によりプレゼンテーションが行われ、選考委員からの活発な質疑が行われた。質疑応答は予定されていた時間を超えることも多く、全 10 隻の発表会は 3 時間余りに及んだ。

その後、選考委員会が 11 名の委員が出席または Web 参加して開催された。発表会でのプレゼン内容や質疑応答、予備審査委員会での審査結果（技術の独創性・革新性、技術・作品の完成度、社会への波及効果、話題性・アピール度）やコメントを参考として選考が進められた。まずフリーディスカッションの後、全選考委員から、シップ・オブ・ザ・イヤーに推薦する作品 1～2 点を推薦理由も付け加えながら挙げてもらった。

候補に挙げられた 3 作品についてさらに活発な議論が行われ、最終的には 10 票を得た「すいそ ふろんてぃあ」をシップ・オブ・ザ・イヤー2021 に選定した。同船は、燃焼時に CO_2 を排出しない次世代エネルギーとして期待される水素を、－253℃で液化し気体の 1/800 の体積にして運ぶ液化水素運搬船のプロトタイプとして世界に先駆けて開発・建造された。オーストラリアからのブルー水素の運搬に成功しており、今後の大型運搬船への発展が期待される。

続いて、各部門賞の選考を実施した。

小型客船部門賞においては、世界初の水素を燃料とするアルミ合金双胴旅客船「ハイドロびんご」が 9 票を得て選ばれた。シップ・オブ・ザ・イヤー2021 に選ばれた水素運搬船と共に、水素を動力源とする船舶が同じ年に開発されたことは意義深い。また、従来船とは異なる外観デザインも評価された。

大型貨物船部門では、LNG 燃料の自動車運搬船「CENTURY HIGHWAY GREEN」が 8 票を得て選ばれた。昨年のシップ・オブ・ザ・イヤー受賞船と同じ LNG 燃料の自動車運搬船であるが、造船所が新たに開発した高圧式燃料噴射システムを採用したディーゼルサイクルとして、環境負荷の大きいメタンスリップを軽減していることが評価された。また、外観デザインも優れているとの評価もあった。

小型貨物船部門賞には、196 トンのケミカル運搬船「りゅうと」が 7 票を得て選ばれた。船員不足に悩む内航船業界にあって、荷役や離着岸操船のデジタル化を進めて船員の負担軽減を図ったことが評価された。

漁船・調査船部門賞には、東京海洋大学の練習船「汐路丸」が 10 票を得て選ばれた。船舶職員の養成だけでなく、海洋開発人材の養成も担う多機能船であり、新しい海洋系大学の練習船に相応しいとの評価があった。

選考委員長　　池田　良穂